

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	健康相談事業	会計	一般会計	事業No.	243	施策順No.	31-006
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-3-11-4		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	保健課		
施策	31 心と体の健康づくり			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		人口 人		106630	105691	105036	107000	
	意図	①市民が気軽に心や体の健康について相談ができ、早期に適切な対応をする ②治療の必要なケースを、早期に発見して医療へ繋げる						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	相談回数	1800回	1918回	2573回	1800回	2,152回	1800回	A
	人数	15823人	17240人	25,346人	16,000人	25,623人	16,000人	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	自殺対策緊急強化事業補助金を活用した相談事業の強化を図り、自殺対策にも取り組んできた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	心身の健康に関する相談に応じて、健康増進や疾病予防のために個人の生活に合わせた指導や助言を行う。相談窓口は、保健センターや各自治振興センターにて随時実施。ストレスを受け不安を抱えたまま解消できない市民が増加しているため、気軽に相談できる「こころの相談窓口」を開設している。第2・4月曜日、予約制で精神保健福祉士が対応している。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 随時健康相談の機会を捉え実施する 2 こころの相談窓口の開設 3 ほっ湯アップルにおける看護師の健康相談事業 4 電話等による相談 5 気軽にこころの相談が利用できるよう「いのちの大切さ」を訴える講演会を開催する 6 自殺対策の庁内連絡会議の立ちあげ	相談回数・人数 講演会開催数	1 495回、6,722人 2 15回、29人 3 217回、17,491人 4 1,411人 5 飯伊研修会269人 6 連絡会議準備会を開催
23年度実施計画	1 随時健康相談の機会を捉え実施する 2 こころの相談窓口の開設 3 ほっ湯アップルにおける看護師の健康相談事業 4 電話等による相談 5 気軽にこころの相談が利用できるよう「いのちの大切さ」を訴える講演会を開催する 6 自殺対策の庁内連絡会議 7 自殺対策に関する講演会の開催	相談回数・人数 講演会開催数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (県)健康増進事業補助金(2/3) 322千円、自殺対策緊急強化事業補助金(10/10) 885千円 (そ)諸収入(健康相談事業負担金)
	国庫支出金					
	県支出金		1,222	1,207	1,353	
	起債					
	その他		200	500	200	
一般財源		2,816	2,520	2,967		
計(A)		4,238	4,227	4,520		
正規職員所要時間			3,300			
臨時職員等所要時間			1,300			
人件費計(B)			13,198			
トータルコスト A+B			17,425			

4 事業に対する市民や議会の意見

民間機関とも連携し、総合的な自殺予防対策の推進を図り、こころの健康の確保に努める。
-------------------------------------------

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が心身ともに健康を保つ	施策の成果指標又はムツス指標	心身ともに健康であると感じている市民の割合 % 一人当たりの国保医療費 円
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	様々な場所で健康相談をおこない、幅広い年齢層を対象に事業を実施してきた。		
	後期に向けた課題	前期には幅広い対象に相談を実施してきたので、後期はより専門的な介入が求められる健康相談をおこなうことも必要と考える。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	広報等でPRに努めた。		
	後期に向けた課題	メディアを活用した情報提供を積極的におこない、市民に相談事業について知ってもらおう。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	県の自殺対策緊急強化事業補助金を活用し、自殺対策への取り組みを行った。		
	後期に向けた課題	補助金を活用して事業展開を継続。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	相談事業は、保健事業の一つとして健康増進法に定められたものであり、市が実施、責任の主体であり、事業費も負担すべきである。		
	後期に向けた課題	今後も事業継続。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①こころの相談において、精神保健福祉士と連携を図り、相談しやすい雰囲気づくりのため相談会場の整備を行った。 ②相談内容や日程のチラシを各戸配布し、事業のPRを行った。		
	後期に向けた課題	より多くの方に利用してもらうために、PR方法を検討する。		
全体を通じて	4年間の振り返り	幅広い年齢層に呼びかけた結果、相談者の人数は伸びている。自殺対策に取り組み始めたことは成果であった。		
	後期に向けた課題	多職種が関わり継続相談できる場、相談内容により必要な職種へつなげられる専門的な相談事業の場を設けるよう検討する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	------------------------------------------	--------------------------------	----------------------------------------------